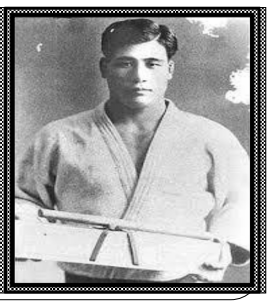
河陽新聞

熊本市南部地区市民の会
発行責任者　　村田幸博

郷土の偉人 木村政彦さん



木村政彦さん生誕百年を、町あげて祝いましょう

木村政彦さんは、大正6年9月10日、旧熊本県飽託郡川尻町大渡、現在の熊本市川尻校区4町内（大渡町）に誕生され、今年の9月に生誕百年を迎えます。

木村政彦さんは知る人ぞ知る有名な柔道家です。第二次世界大戦の戦前戦後時代（1940年代）15年間も不敗のままで引退され、今でいう全日本柔道選手権大会を13連覇した怪物的な柔道家です。

戦後の貧しい時代に奥さんや家族を守るためにプロレスラーの力道山と闘われた事は、今なお、「昭和の巌流島」と称され小説やマンガにも描かれるなど、有名な郷土の偉人です。

今回、川尻商店街連合会（福山龍太郎会長）が主となり、木村政彦さんをテーマに色々な取り組みが計画されています。

企画内容を紹介しながら人物像を描きます。

大慈禅禅寺にある木村政彦さんのお墓を掃除するメンバー

木村政彦 生誕百年記念セレモニー

と き：2017年9月10日　10時　開会

会 場：川尻小学校体育館（川尻4−1−1）

参加費：無料、（大勢のご参加大歓迎）

【開催に向けた趣旨】

目的は、川尻校区の郷土の偉人木村政彦先生をもっと知ってもらい、次世代に語り次いで貰いたく、川尻校区の各種団体や柔道関係者に呼びかけ実行委員会を立ち上げ実施して行く運びになりました。

実行委員長に元市長で自宅にも柔道場を設けるなど、地元の青少年に柔道の普及指導を実施されてきた三角保之さんに、副委員長に川尻校区自治協議会の玉眞勇一会長など、川尻校区オールメンバーで進めています。

お墓も大慈禅寺に、子供の頃に通われた柔道場跡は小学校の前にあり、今だ校区に数多くの足跡が残されています。

木村政彦さんご家族と 川尻校区

今回の新聞づくりを通じ、木村政彦さんは日本で超有名な柔道家だけではなく、川尻校区の人々にとっては、ご家族ともども身近な人であったことがうかがい知れます。

下記の写真は昭和22年頃、大渡町のご自宅での写真と推察されます。写真中の長男さんは昭和21年生まれで、現在、30名ほどの同級生の方々が各町内で暮らされています。

同級生で、7町内自治会長の見原 正さんに尋ねたら「小学生の時に同じクラスで家に遊びに行ったことがある、庭にザクロの木があった。詳しくは4町内の永川君に聞いてくれ！」とのことで、防犯協会の永川康一さんを訪ね、お話をお聞きした。

暮らされていた大渡の家は、大慈禅寺入口の碑から熊本よりに4軒目で、今は別な人が暮らされていました。

永川さんの話では、「木村さんは拓殖大学柔道部の監督時代は、毎年、夏には生徒さんを引き連れ大渡の早崎床屋さんを訪ねられていたよ！」と、時代を振り返り多くの事を説明してもらいました。

また、女性の同級生で民生児童委員をされていた6町内の平野弘子さんに尋ねてみたら、「私たちの年代は5クラスあり、男子とはあまり交流がない時代で、木村君はあまり知らんとよ！」など、当時の時代背景を知ることが出来ました。

柔道関係者に木村政彦さんの事を尋ねると、全員から帰って来た内容が「木村先生の足腰を鍛えたのは、子供の頃、父の手伝いで加勢川の砂利あげをしていたから」と言われました。

木村の先に木村なし、木村の後に木村なしと、とよばれている。

木村政彦さんの身長は170㎝体重85㎏けっして恵まれた体格ではない、しかし、伝説的に言われているのは「練習の鬼」と呼ばれ、誰よりも練習にはげみ「三倍努力」は木村政彦さんの代名詞となっている。

具体的な練習として、腹筋を毎日千回、大木に柔道の帯ヒモを巻き付けて行う 打ち込みも千回、長時間練習の仕上げに腕立てを千回されたそうだ。

木村さんの強さの秘訣は、自己を厳しくトレーニングされただけでなく、新たな技をあみ出され、今ではその多くの技が世界の柔道で使われている。

さらに拓殖大学をはじめとする後輩たちを指導されたことも有名である。

下記の写真は、数多い指導書の一冊で40年前に発行され本の表紙です。

この本の木村政彦さんと相手するモデルの人は、加納良一氏、天明町出身で木村先生と同じく鎮西高校から拓殖大学に行かれ、拓殖大時代に作られた技の指導書だそうです。腕立てや腹筋を千回以上すると手やお尻の皮がむけた話や木村先生の体は筋金入りの筋肉であったことなどお聞きしました。

編集後記

熊本大震災から一年以上が過ぎ、川尻校区の人々の暮らしも少し落ち着きを取り戻し、多くの家が地震のあおりで壊され、地域の風景も大きく様変わりしてしまいました。

この河陽新聞は年3回発行し、川尻校区の全世帯（３０００戸）に自治会を経由して配布されます。

しかし、川尻小学校などに関わって来た人は、2万人近くいます。そこで、熊本大震災を機に、この新聞が見れるようにインターネットで眺められるようになりました。

※川尻商店街連合会のホームページから河陽新聞の全てが眺められます。

川尻小学校の卒業生は日本だけでなく、世界の各地で活躍しています。

その方々に、いつでも生まれ育ち関わって来た地域の情報が分かるようになっています。

今回の、「郷土の偉人木村政彦さん」は、８００部印刷し、近郊の地域や柔道関係者に配布する予定です。

毎回、手を変え品を変え川尻校区の状況が眺められるように工夫をしています。

前回の「川尻校区の野鳥たち」も家々の壁に貼られてるようです。

この新聞で何度か取り上げた「旅する蝶を招く計画」6年目を迎え蝶の習性が分かって来ました。旅する蝶アサギマダラは、10月10日～25日にかけ小学校の玄関や加勢川河原に多く飛来します。

楽しみに期待して下さい。

二倍努力

今回、木村政彦さん特集を描くに当たりインターネットやユーチューブに山のような情報がある事を知りました。

そして、知ったことは木村政彦さんは柔道界における偉大な伝説の方である事を知りました。

同じ地域で生まれ育ちながら年代が異なるために名前は知っていましたが内容は知らなく、申し訳なく感じました。

今後、今回を皮きりに２０２０年の東京オリンピックまで色々な企画が実施されると思います。

川尻校区だけでなく柔道関係者などの方々と力を合わせ、郷土の偉人・木村政彦さんを誇って行きたいと思います。